

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	からだづくり運動 (年間7単位時間以上)				単元の系統性	小学校高学年では、運動の楽しさや喜びを味わい、行い方を理解する学習をしてきていることを踏まえ、体づくり運動の意義と体の動きを高める方法などを理解させながら、目的に適した運動を組み合わせるようにする。			
4 ・ 通 年	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>・体ほぐしの運動 例)ラジオ体操、集団行動、鬼ごっこ、足でジャンケン&amp;あっち向いてほい…など</p> <p>・体の動きを高める運動 例)毎時間の補強運動、ランニング、各単元の際に応じた体力を高める運動…など</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>(主体的) 毎時間のランニングでは、前回のタイムを示すことで目標を提示し、意欲をもって参加できるようにする。</p> <p>〈対話的〉 鬼ごっこや足でジャンケンなどの体ほぐしの運動において、自分たちで特別ルールなどを作らせて対話を生むなどの工夫をする。</p> <p>〈深い学び〉 各単元ごとに必要な体力などを提示することで、体の動きを高めることと運動の内容が結びついていることを理解させ、今行っている運動がどのような体力と関わって結びついているのかを考えさせる。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①体ほぐしの運動では、ペアやグループ学習にすると自ら仲間と関わりに行くことができない生徒がいる場合がある。</p> <p>②体の動きを高める運動では、現在行っている運動と高まっている体力の結びつきを理解できない生徒がいる場合がある。</p>				
						<p>工夫・手立て</p> <p>①体育委員や学級委員などの中心となる生徒とあらかじめペアを作るよう促したり、鬼ごっこなどの全体が関わり合うような運動を多く取り入れるようにする。</p> <p>②毎回の授業において、現在行っている運動はこの体の動きを高める運動になっているかを板書したり掲示したりすることで明確にし、常に意識して運動をさせるように心がける。</p>				
評価規準										
知識・技能		<p>・体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・体の動きを高めるには、適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮して組み合わせる方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・運動の組合せ方には、効率のよい組合せとバランスのよい組合せがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p>			思考・判断・表現		<p>・体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。</p> <p>・体の動きを高めるために、自己の課題に応じた運動を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、仲間との関わり方を見付けている。</p> <p>・体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見付け、仲間に伝えている。</p>		主体的に学習に取り組む態度	
<p>・学習カード</p> <p>・実技テスト</p> <p>・定期考査</p>		<p>・学習カード</p> <p>・実技テスト</p> <p>・定期考査</p>		<p>・行動観察</p> <p>・学習カード</p>						

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	陸上競技 (18時間)				系統元性	小学校では、低学年の「走・跳の運動遊び」、中学年の「走・跳の運動」、高学年の「陸上運動」で、幅広い運動の学習をしているため、中学校では、陸上競技に求められる基本的な動きや効率の良い動きを発展させて、各種目特有の技能を身に付けることができるようにすることが求められる。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
4 ・ 5 ・ 12 ・ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>短距離走、リレー クラウチングスタート、50m走、バトンパス、リレー</li> <li>長距離走 1500m走、12分間走、ロードレース大会</li> </ul> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 体力テストの点数表や、前時の自分の記録などを毎回提示し、自分の到達可能だと考える目標を設定させて、自己実現の機会を多くして評価する。 (対話的) バトンパスや12分間走では、ペアの中でフォームをチェックし合ったり、ラップタイムを意識し合ったりするような対話の機会を多くさせる。 (深い学び) バトンパスでは、どのように受け渡しをしたらタイムが縮まるか。 長距離走では、どのような呼吸法が自分に適しているか。など、自らに適した方法を模索させる。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①クラウチングスタートでは、自分に適した足の位置などが分からないままにしてしまう。</p> <p>②長距離走では、運動強度に耐えられず意欲を失ってしまう生徒がいる。</p>		
						工夫・手立て	<p>①クラウチングスタートの際の足の置き位置を細かく指導し、ペアで確認させるなどして徹底する。その上で、自分に適した足の位置を少しずつ決めていくような段階を踏んで指導していく。</p> <p>②速く走ることより、ペースを守って走ることに焦点を当て、それが達成できたときに適切に評価する。</p>		
知識・技能	<p>次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守って走ること</p>					思考・判断・表現	動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。		主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード</li> <li>実技テスト</li> <li>定期考査</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード</li> <li>実技テスト</li> <li>定期考査</li> </ul>		

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単 元 名	器械運動 (6時間)				系単 統元 性の	前転や後転など、基本的な技は小学校5、6年生で既習している内容となるため、 中学1、2年生では技をよりよく行わせると共に、発展技に挑戦させるように指導 する。		
11	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>・マット運動 オリエンテーション 回転系と巧技系の技の習得 発表</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 自ら技のまとめりや、系統について知り、自らの意志で挑 戦する技を選択させる。選択した技ごとに最高点を提示 し、その最高点を目標として主体的に練習をさせる。 〈対話的〉 ICT機器などを活用して、お互いに映像を撮るなどするこ とで、互いの良いところや改善点などを話し合う活動を取り 入れる。 〈深い学び〉 技の系統や技群ごとに美しく見せる方法を提示すること で、技の完成度を高める喜びを味わわせる。</p>					つ ま ず き や す い ポ イ ン ト	<p>①回転と同時に手の平をマットにきちんと付ける ことが難しく、前転系や後転系ができない。</p> <p>②柔軟性が無い生徒は、開脚や伸膝系の技が難 しい。</p> <p>③自らの動きを客観的に捉えられないので、手 足をきちんと伸ばしたり美しく見せたりするこ とができない。</p>		
						工 夫 ・ 手 立 て	<p>①ペアで学習をさせ、補助させ合うことにより、手の ひらをマットに付けることを徹底させる。</p> <p>②授業の導入時に柔軟運動を取り入れる。放課後の宿 題として、柔軟運動をさせる。保護者にも協力を仰ぐ ようなチェックシートを用意する。</p> <p>③ICT機器を利用して、自らの動きを客観的に視覚的に 捉えて自らの動きを把握させる。</p>		
評価規準									
知識・ 技能	技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性 や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連し て高まる体力などを理解するとともに、技をよりよ く行うこと。マット運動では、回転系や巧技系の基本 的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展 技を行うこと及びそれらを組み合わせることができ る。				思考・ 判断・ 表現	技などの自己の課題を発見し、 合理的な解決に向けて運動の 取り組み方を工夫するととも に、自己の考えたことを他者に 伝えている。		主体的 に学 習に 取り 組 む 態 度	器械運動に積極的に取り組むととも に、よい演技を認めようとするこ と、仲間の学習を援助しようとし ること、一人一人の違いに応じた 課題や挑戦を認めようとするこ となどや、健康・安全に気を配 っている。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード</li> <li>実技テスト</li> <li>定期考査</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード</li> <li>実技テスト</li> <li>定期考査</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>学習カード</li> </ul>

学年										
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画			
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	水泳 (11時間)				系統性の	小学校では、「水の中を移動する、潜る・浮く運動遊び」や「クロール・平泳ぎ」などの幅広い泳法に関する動きを学習している。これらを受けて中学校では、泳法を確実に身に付け、効率的に泳ぐことができるようにすることが求められる。また、小笠原では、小学校高学年から遠泳大会を行っており、海の中でいかにペースを守って泳ぐかということを学習できている現状がある。			
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
6 7 8 9	<p>・水泳 クロール、平泳ぎ、10分泳、遠泳大会、AED講習</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 習熟度別に学習させるために学習課題に応じていくつかのグループに分け、自分の泳力に応じて自ら課題を選択することで、目的意識をもって取り組ませる。また、10分泳では記録の向上に挑戦することで自ら進んで学習に取り組ませる。</p> <p>〈対話的〉 ペアでフォームのチェックや、10分泳のペースの管理をしようなど、どう泳いだら効率が良くなるかを話し合う機会をつくる。</p> <p>〈深い学び〉 学習の導入の場面などで、背泳ぎやバタフライに必要な補助運動を取り入れるなどして、新たな泳法に触れさせる。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①泳ぐことに苦手意識をもっている生徒が多い。</p> <p>②幼少期から海で遊んでいるため水に浮かぶことはできるが、細かい泳法を学んでいるわけでは無いため、適切なフォームで泳げない生徒もいる。</p>			
						工夫・手立て	<p>①習熟度別に学習を行う際に、ビート板などの補助道具を用いて初期段階から学び直させる。</p> <p>②ペア学習や、個別指導を通してクロールと平泳ぎの適切なフォームを指導したり、お手本を動画で見せるなどして良いフォームを習得できるようにする。</p>			
評価規準										
知識・技能	記録の向上や、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けること。 クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぎ、平泳ぎでは、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。					思考・判断・表現	泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。			主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> <li>・実技テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> <li>・実技テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>			

学年						小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画			
小学校			中学校						
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	球技 (21時間)				系統性の	小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとして学習に取り組んでいるため、中学校では、基本的な動きを發展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
9 ・ 10 ・ 1 ・ 3	球技 ①バレーボール オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサービス、審判法、ゲーム ②ソフトボール キャッチボール、トスバッティング、ゲーム ③バスケットボール パス、ドリブル、レイアップシュート、ゴール下のシュート、3on2、ゲーム  <主體的・対話的>で深い学びからの授業改善の工夫 <主體的> ペアやグループなどで教え合いの機会を多くすることで、関わり合いの中で主體的に学習に取り組むようにする。 <対話的> 条件付きの練習やゲーム、また正規のゲームを通してチームがより良くなる方法を話し合わせる機会を多くし、そこで出たアイデアを発表するなどの活動を行うことで言語活動を多くする。 <深い学び> どの球技においても作戦会議の時間を多くし、競技の特性やチームの能力に応じた作戦を立てて実行し、それに対しての振り返りを行うなどして深い学びへと繋げていく。					つ ま ず き や す い ポ イ ン ト	①ボールに対して恐怖心をもってしまっ てボールに関われない生徒がいる。  ②得意な生徒とそうでない生徒の二極化が 生まれてしまう。  ③チームの活動に積極的に参加できない生 徒がいる。		
						工 夫 ・ 手 立 て	①まずは、ボールに慣れるような補助運動をオリエン テーションの中で取り入れる。そしてそれを毎回の導 入時に行うなどして徐々に恐怖心を除いていく。  ②習熟度に差がある生徒同士をペアにすることで、教 え合いの中で学習する機会を多くする。  ③チームの活動だけでなく、個人でも本時の内容を振り 返られるような学習カードを用いる事で、自分の課 題や振り返りをチームでも共有できるような働きかけ を意識する。		
評価規準									
知識 ・ 技能	ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きを知り、ネット型ではボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きを知り、ベースボール型では基本的なバット操作とボール操作をすることを 知ること、球技の勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、仲間と連携してゲームを展開すること。					思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。		
	・学習カード ・実技テスト ・定期考査						・学習カード ・実技テスト ・定期考査		
					主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなど、健康・安全に気を配ること。			
						・行動観察 ・学習カード			

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単 元 名	武道 (12時間)				系 単 元 性	小笠原では、小学校段階で学校外で柔道や剣道を習っている生徒も少なくないが、武道は中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる動きを確実に身に付け、それらを用いて相手の動きの変改に対応した攻防を展開することができるようにすることが求められる。			
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
5 ・ 6	<b>剣道</b> 礼法、防具の着方の仕方、基本動作(体さばきや構え方、基本の打突)、判定試合  <主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫> <主体的> 生徒が武道というものに親しみやすくするために、最初は活動を多く取り入れ、竹刀を扱うことなどの楽しさを味わわせる。その上で剣道の特性や成り立ちを指導していくことで、興味関心をもって学習に向かわせる。 <対話的> 判定試合において、お互いの技術を評価し合い、その根拠も説明させる活動をグループで行うことにより、言語活動を多くする。その際には、見るべき視点を教師側が示すことによって生徒が評価しやすくするなどの工夫が求められる。 <深い学び> 礼法や技術を教えるだけでなく、武道の歴史的背景にも触れながら特性や成り立ちを理解させていく。					つ ま ず き や す い ポ イ ン ト	①大きな声を出すなどの充実した氣勢をもってできない生徒がいる。  ②体さばきと打突のリズムや連動性が取れずに、バラバラな動きになってしまう生徒がいる。			
						工 夫 ・ 手 立 て	①補助運動や遊びの要素を取り入れることで、少しずつ声を出せるようにする。また、判定試合の評価項目の中に「声の大きさ」等を入れ、その成長を評価していくことで自己実現につなげていく。  ②自分の動きを客観的に見るために、ICT機器を利用する。			
評価規準										
知識 ・ 技能	剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をする学習を通して、技ができる楽しさや喜びを味わうと共に、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解した上で基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。					思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。		主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。
	・学習カード ・実技テスト ・定期考査						・学習カード ・実技テスト ・定期考査			

学年									
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画		
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	ダンス (11時間)				系統元性の	小学校では、表現リズム遊びや表現運動などを通して、題材の特徴、リズムや踊りの特徴を捉えて踊ったりすることを学習している。中学校では、イメージを深めて表現することや、リズムに乗って全身で踊る事などができるようにすることが求められる。小笠原では、小学校段階から学校外で習い事としてダンスを経験していたり、伝統文化であるフラダンスを習っている生徒もいる。また、小学校3年生で南洋踊りを既習しているため、ダンスの経験をもっている生徒がほとんどである。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
9 ・ 2	現代的なリズムのダンス グループ学習、発表 連合運動会に向けての全校での取組					つまずきやすいポイント			
	<p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>〈主体的〉 いくつかのグループに分け、ダンス経験者からリーダーをつくり、リーダーを中心に自分たちで曲や振り付けを考えさせて学習する活動を取り入れる。</p> <p>〈対話的〉 生徒同士の教え合いや発表会の中で、お互いを評価し合う時間を取り、アドバイスや反省点を指摘し合う活動を取り入れる。</p> <p>〈深い学び〉 連合運動会では、全校での発表となるため、異学年との交流の中で更に深い技術や表現の仕方を学ぶ事ができる。</p>					<p>①ダンスを習ってきていない生徒が苦手意識をもつことがある。</p> <p>②細かいステップや速いリズムについていけない生徒がいる。</p>			
評価規準						工夫・手立て			
知識・技能	現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊ることを通して、感じを込めて踊ったりみんなが踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。					思考・判断・表現			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> <li>・実技テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> <li>・実技テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>			
						主体的に学習に取り組む態度			
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・学習カード</li> </ul>			

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	保健分野 (16時間)				系統性の	小学校では、健康の大切さや健康にまい生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。それを踏まえて中学生では、人間の健康は主体と環境が関わり合っていることや、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対処する適切な対策があることについて理解できるようにする必要がある。 傷害の防止については、小学校でも交通安全教室などを通して、身の回りの生活が原因となって起こるケガの防止などについて学習しているため、中学校では傷害の発生には様々な要因があり、それらに適切に対処することで傷害の多くは防止できることなどを学んで		
通年	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>障害の防止(8~10時間)          傷害・交通事故の発生要因          交通事故の危険予測と回避          犯罪被害の防止          自然災害による危険・傷害の防止          投球手当の意義と方法、心肺蘇生法</p> <p>健康な生活と疾病の予防②(6~8時間)          生活習慣病の起こり方・予防、がんの予防          喫煙・飲酒・薬物乱用の害と健康          薬物乱用の社会的な影響          喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処          (主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫)          (主体的)          自らの身体のことにも目を向けさせ、この学習内容が、生涯にわたってよりよく生活していくうえで欠かせないことを理解させることで、興味関心をもって学習できるように促す。          (対話的)          応急手当の方法で、止血法や包帯法などをお互いに実践し合う活動を通して、助言などの言語活動を多くする。また、心肺蘇生法の学習を通して、小笠原で起こりえる事故の想定などを話し合わせる。          (深い学び)          この単元で学んだ内容を基に、小笠原で起こりえる事故や障害を具体的に連想させ、その対応法などを考えて実践させることにより、実践力を身に付けさせる。</p>					つまずきやすいポイント	①心肺蘇生法において、体重が軽かったり力が弱かったりする生徒は胸骨圧迫を十分な力で行えない。 ②小笠原は娯楽施設などが少ないため、薬物乱用へのきっかけなどを具体的に連想できる生徒が少ない。		
						工夫・手立て	①体重をしっかりとけて行うことを指導すると共に、胸骨圧迫以外の関わり方(AEDや119番など)もあることを指導する。 ②DVD教材などを活用し、内地ではこのような現状があるという事実を伝え、危機感をもたせるようにする。		
評価規準									
知識・技能	生活習慣病は、日常生活習慣(たばこ、飲酒などを含む)が主な要因となって起こり、生活習慣を見直せば、がんを含むその多くは予防できるということを理解している。 多くの傷害は人的要因と環境要因が関わり合って発生すること。交通事故の要因やその防止の方法を知っていること。犯罪や自然災害に巻き込まれない方法を知っていること。また、傷害に対しての応急手当や心肺蘇生法について理解し、実践できる力を持っていること。				思考・判断・表現	傷害や交通事故、犯罪被害や自然災害の発生要因とその防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。応急手当の意義や目的、手順について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。		主体的に学習に取り組む態度	傷害や交通事故、犯罪被害や自然災害の発生要因とその傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。応急手当の意義や目的、手順についての学習に自主的に取り組もうとしている。
	・ワークシート ・定期考査					・ワークシート ・定期考査			・ワークシート ・行動観察

学年										
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 2年 年間指導計画		
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単 元 名	体育理論 (年間3単位時間程度)				系単 統元 性の	1年生で学んだスポーツの楽しさや、スポーツへの関わり方やその多様性を踏まえて、2年生では運動やスポーツがどのような意義をもっているのかという内容を学習し、更に生涯スポーツへの意識を高めていく必要がある。			
通 年	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に及ぼす効果</li> <li>・社会性の発達に及ぼす効果</li> <li>・安全な行い方</li> </ul> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 自らがやっているスポーツと関連付けることで、その意義や効果を知り、更に運動やスポーツに意欲的に取り組めるように働きかける。 〈対話的〉 学習内容について、自らの考えを発表することや、相手の考えを傾聴するなどの時間を取り入れる。 〈深い学び〉 生涯スポーツという観点で、運動やスポーツが自分の将来にどのようなつながって、どのような効果があるのかなどを考えさせる。</p>						つ ま ず き や す い ポ イ ン ト		①運動やスポーツにあまり興味や関心もなく、関わっていない生徒は、自らの生活と関連付けたり意欲的に学習に取り組むことができない。	
							工 夫 ・ 手 立 て		①スポーツには、多様な関わり方があることを踏まえ、その中で自分に及ぼす効果が何かを考えさせる。	
評価規準										
知識・技能		運動やスポーツは、体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果およびルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解している。また、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることを理解し、それらを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解している。				思考・判断・表現		運動やスポーツが心身や社会性におよぼす効果や学び方、安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。		主体的に学習に取り組む態度
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・定期考査</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・定期考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul>